矢作建設工業株式会社

個人投資家向け会社説明会

矢作建設工業株式会社　証券コード1870
（東証プライム・名証プレミア）

2025年7月27日

©2025　All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

目次

矢作建設工業株式会社

Ⅰ 会社概要 P. 2

Ⅱ 2025年3月期 決算 P. 14

Ⅲ 2026年3月期 業績予想 P. 20

Ⅳ 中期経営計画 P. 23

Ⅴ 株主還元 P. 30

©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

Ⅰ.会社概要

©2025　All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

会社概要

矢作建設工業株式会社

会　社　名	矢作建設工業株式会社（英文名 YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.）
本　　社	愛知県名古屋市東区葵3-19-7
代　表　者	代表取締役社長　髙柳 充広
設　　立	1949年5月14日
事業内容	総合建設業〔 建築事業、土木事業、不動産事業 〕
資　本　金	68億8百万円
上場市場	**東証プライム　名証プレミア**　東海圏に本社を置くゼネコンで唯一の東証プライム市場上場
従業員数	1,392名〔連結〕
支　　店	東京、大阪、東北（仙台）、広島、九州（福岡）
グループ会社	矢作地所株式会社 株式会社テクノサポート 北和建設株式会社 矢作ビル＆ライフ株式会社 ヤハギ道路株式会社 南知多未来パートナーズ株式会社 ヤハギ緑化株式会社 南信高森開発株式会社
主要株主	1. 名古屋鉄道株式会社　19.1% 2. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）　8.0% 3. 矢作建設取引先持株会　6.9% 4. 矢作建設工業社員持株会　3.1% 5. 日本生命保険相互会社　1.9%

（2025.3.31現在）

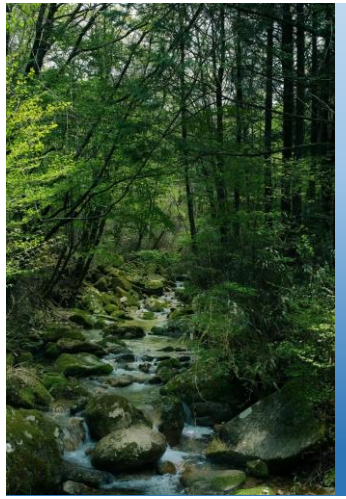
©2025　All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

社名の由来

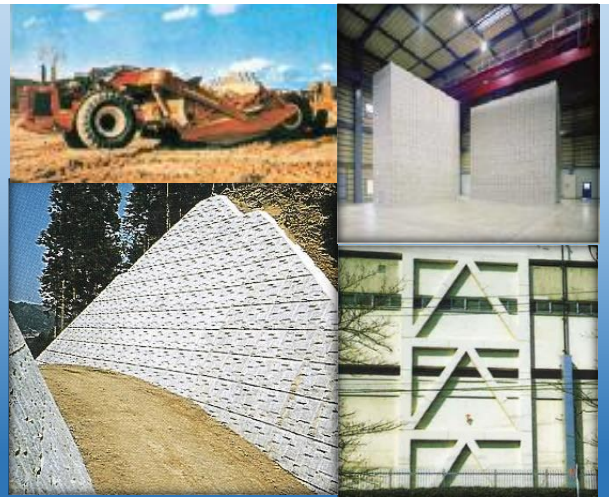
1949年、愛知県西加茂郡挙母町（現 豊田市竹生町）にて会社設立

創業者 山田勝男 の**「志」**を具現化した社名

矢作建設工業



**郷里を流れ太平洋へ
繋がる「矢作」川から
日本全国へ飛躍する
想いを込めた**



**太平洋戦争の経験から
機械化による
近代的な建設を目指す
「建設工業」**

©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

矢作建設工業とは

矢作建設工業の特徴を表す3つのキーワード

設計施工

東海圏において最大規模の設計部門を有し、企画・設計の初期段階から顧客の課題に寄り添った最適なソリューションを提供する設計施工一貫体制を確立

不動産事業

建設事業のみならず、行政や地域社会と連携した産業用地の開発や自社ブランドマンションの分譲など、社会との共創を重視した不動産事業にも注力

東海圏

1949年に現在の愛知県豊田市で設立して以来、東海圏を中心に事業を展開
同地域に本社を置く総合建設会社で唯一の東証プライム市場上場企業

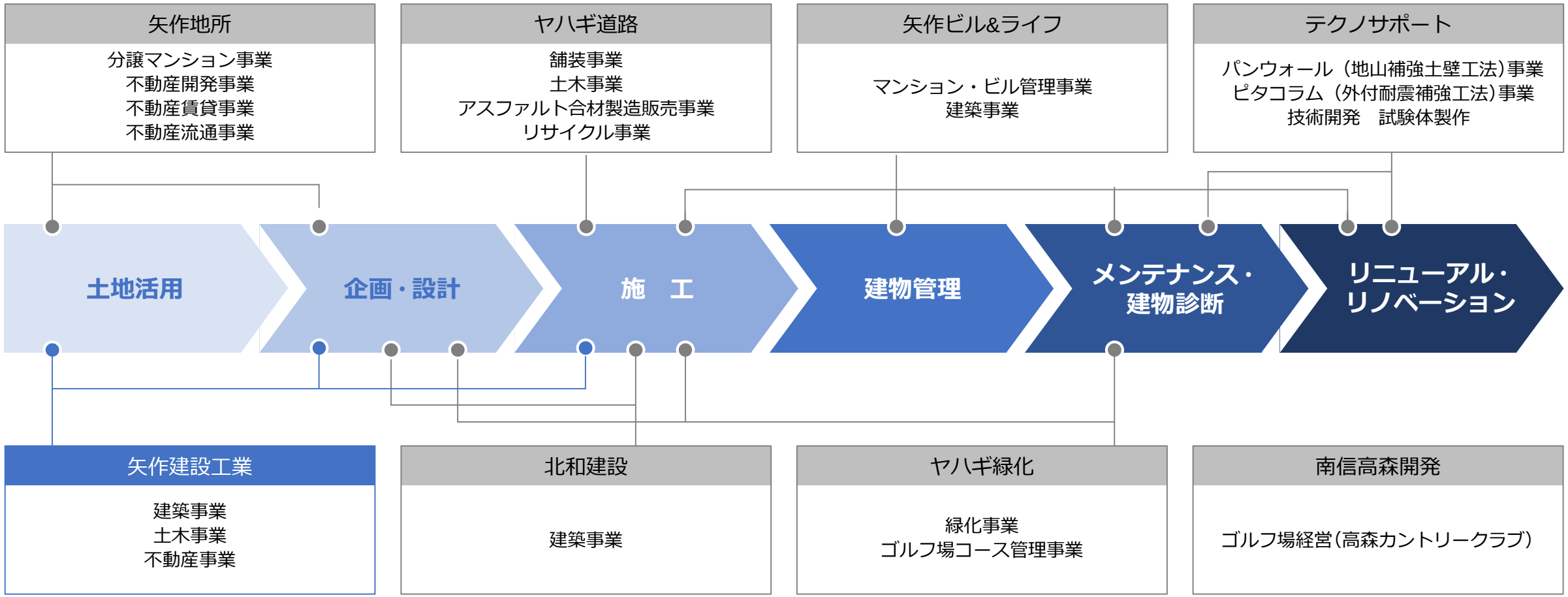
設計施工や不動産事業に強みを持つ、
東海圏を地盤としたエンジニアリング志向の中堅ゼネコン

©2025　All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

YAHAGI ENGINEERING

矢作建設工業株式会社

建物の企画・設計段階から維持管理・リニューアルに至るまで、建物のライフサイクル全体を支える建設エンジニアリング企業
グループ各社が有する専門性と高度な技術力を統合し、「矢作建設グループだからこそ実現できる価値」を提供



©2025　All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

沿革

矢作建設工業株式会社

建設の工業化

創業～1970年

- モータースクレーパーなど大型重機を積極的に導入し、機械化・工業化に邁進

経営の多角化・拡大

1971年～1990年

- 分譲マンション事業、緑化事業に進出するなど事業の多角化を推進

経営資源の選択と集中

1991年～2012年

- バブル崩壊を機に、公共事業依存からの脱却やピタコラム工法を中心とした耐震補強事業への注力など、経営資源の選択と集中を進める

再成長、更なる飛躍

2013年～

- 大型案件への取組み強化、不動産開発の強化など、リニア経済圏での事業拡大を図る

1949 愛知県西加茂郡挙母町（現 豊田市竹生町）に会社設立

1950 名古屋鉄道より軌道敷内工事初受注

1960 モータースクレーパー2台導入

1967 名鉄建設（株）と合併

矢作地所（株）、国際開発ビルディング（株）（現 矢作ビル＆ライフ（株））設立

1971 分譲マンション事業に進出

パビリオンシリーズ

1972 ヤハギ緑化（株）設立

1982 名古屋証券取引所市場第2部 上場

1989 矢作地所のバンベールシリーズ開始

1991 名古屋証券取引所市場第1部 昇格

1993 パンウォール工法開発

1995 東京証券取引所市場第1部 上場

1996 ピタコラム工法開発

2000 （株）テクノサポート設立

2001 ヤハギ道路（株）設立

2006 地震工学技術研究所（現 エンジニアリングセンター）設立

2014 鉄道技術研修センター設立

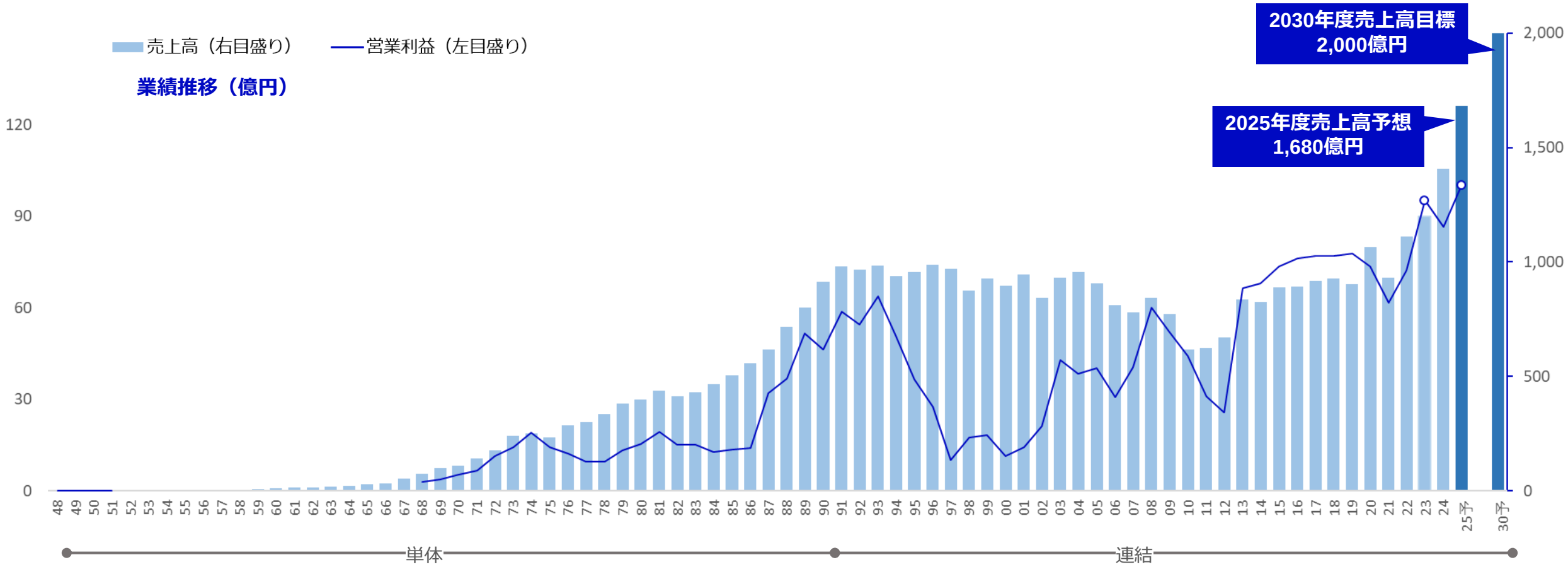
2023 北和建設（株）を子会社化

©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

業績推移

矢作建設工業株式会社

建設の工業化	経営の多角化・拡大	経営資源の選択と集中	再成長、更なる飛躍
創業～1970年	**1971年～1990年**	**1991年～2012年**	**2013年～**
• モータースクレーパーなど大型重機を積極的に導入し、機械化・工業化に邁進	• 分譲マンション事業、緑化事業に進出するなど事業の多角化を推進	• バブル崩壊を機に、公共事業依存からの脱却やピタコラム工法を中心とした耐震補強事業への注力など、経営資源の選択と集中を進める	• 大型案件への取組み強化、不動産開発の強化など、リニア経済圏での事業拡大を図る

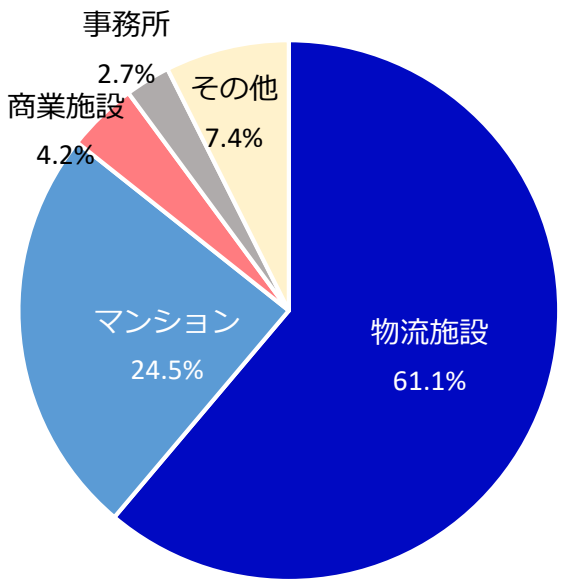


©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

建築事業

矢作建設工業株式会社

用途別売上構成 (2025年3月期)



主な発注者

野村不動産
三井不動産
三菱地所
大京
積水ハウス
大和ハウス工業
日本GLP
イケア・ジャパン
名古屋鉄道

プラウドタワー春日井 (愛知県春日井市)

新たな賑わいを創出する駅前再開発事業

DPL名港弥富Ⅰ（愛知県弥富市）

社会経済を支える
東海・北陸地域最大規模の物流拠点

IKEA長久手 (愛知県長久手市)

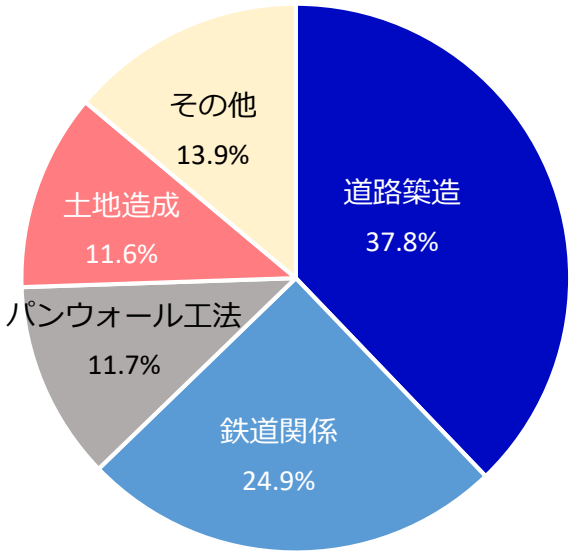
世界的な家具/インテリア販売店の
東海地方初出店に貢献

©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

土木事業

矢作建設工業株式会社

用途別売上構成 (2025年3月期)



主な発注者

国土交通省
NEXCO中日本
愛知県
名古屋鉄道
トヨタホーム
日揮
東洋エンジニアリング

新東名高速道路御殿場インターチェンジ工事 (静岡県)

東名高速道路のダブルネットワーク化など、強固な社会資本整備に寄与

FBIT美咲発電所 (岡山県久米郡美咲町)

カーボンニュートラルに貢献する大型太陽光発電施設

名古屋鉄道犬山線布袋駅本線軌道 (愛知県江南市)

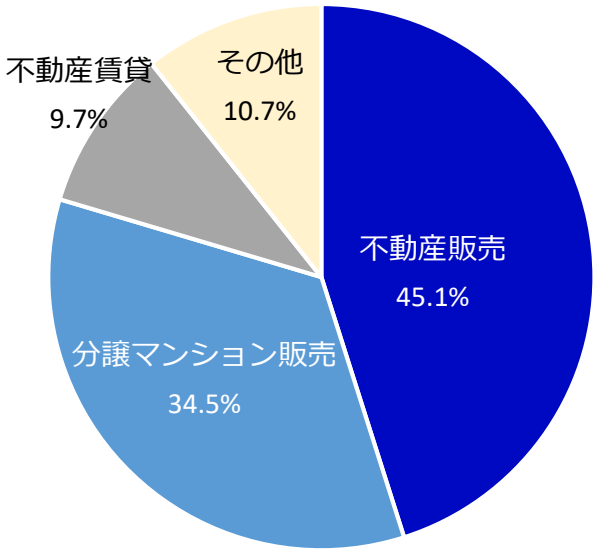
鉄道の安全・安定輸送に貢献

©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

不動産事業

矢作建設工業株式会社

用途別売上構成 (2025年3月期)



大府東海開発プロジェクト（愛知県大府市・東海市）

進出企業・行政・地域社会と連携して実現する不動産開発

アイミッションズパーク桑名開発事業（三重県桑名市）

顧客ニーズをスピード感をもって実現する不動産開発

バンベール知立ザ・マーク

商品企画から販売・管理まで自社グループで完結する分譲マンション事業

©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

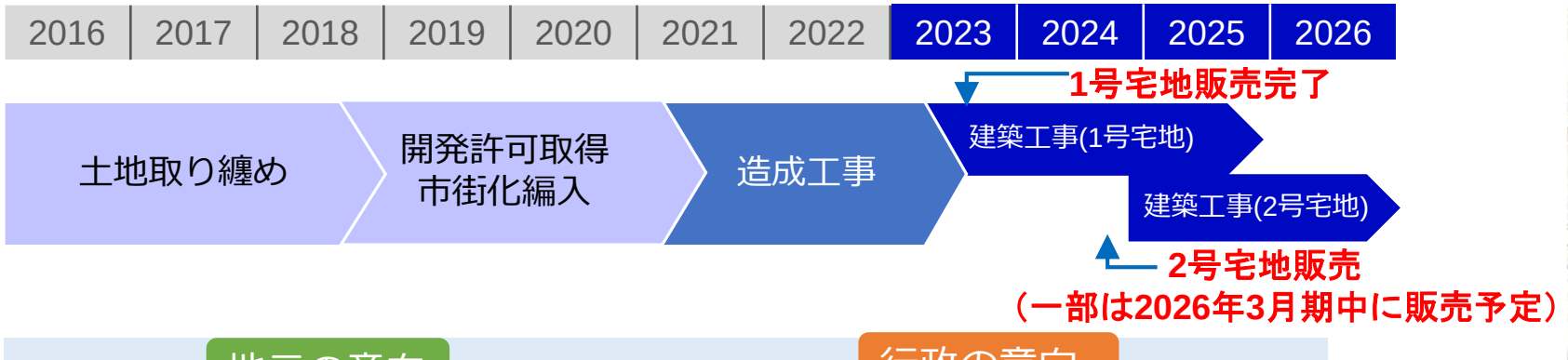
大府東海開発プロジェクト

矢作建設工業株式会社

事業主として当社が手掛ける、過去最大規模の不動産開発プロジェクト

愛知県大府市・東海市にまたがる約7万坪（23万㎡）の工業団地開発
1号宅地と2号宅地（一部）を併せて、2024年3月期から2027年3月期の4期間にわたり、総額1,000億円規模の売上計上※を見込む
※不動産事業等売上高、完成工事高の合計（詳細は、2023年10月20日、2025年1月24日の「販売用不動産の売却等（予定）に関するお知らせ」をご参照ください）

■事業スケジュール：2016年4月～2027年3月（予定）



地元の意向

■ 当該エリアでの一体開発

行政の意向

■ 都市計画マスタープランに従った地区計画を実現

当社のソリューション

■ 両者の意向を踏まえ、事業主として開発を推進

蓄積してきたノウハウ

地権者交渉 ▶ 行政協議 ▶ 土地開発 ▶ 企業誘致 ▶ 建設工事

■プロジェクト概要

現地航空写真（2025年7月現在）

©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

数字で見る矢作建設工業

矢作建設工業株式会社

売上高（25.3期）	営業利益（25.3期）	営業利益率（25.3期）
1,406億円 ＊過去最高	**86億円** ＊過去2番目の高水準	**6.2%** ＊プライム上場建設業平均：4.9%

DOE（自己資本配当率）（25.3期）		予想配当利回り
5.1%	**YAHAGI ENGINEERING**	**5.3%** ＊2026.3期年間配当予想90円 及び6月30日終値1,703円より算出

パンウォール工法累計施工面積（25.3末）	設計施工比率（25.3期）	技術者人数（25.3末）
400,000㎡ ＊東京ドーム8.5個分（建築面積）	**95.6%** 建築工事受注高（解体・補修を除く）に占める割合	**一級建築士 161名** **一級建築施工管理技士 385名** **一級土木施工管理技士 346名**

©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

Ⅱ.2025年3月期 決算

©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

2025年3月期 決算ハイライト

矢作建設工業株式会社

■ **売上高**

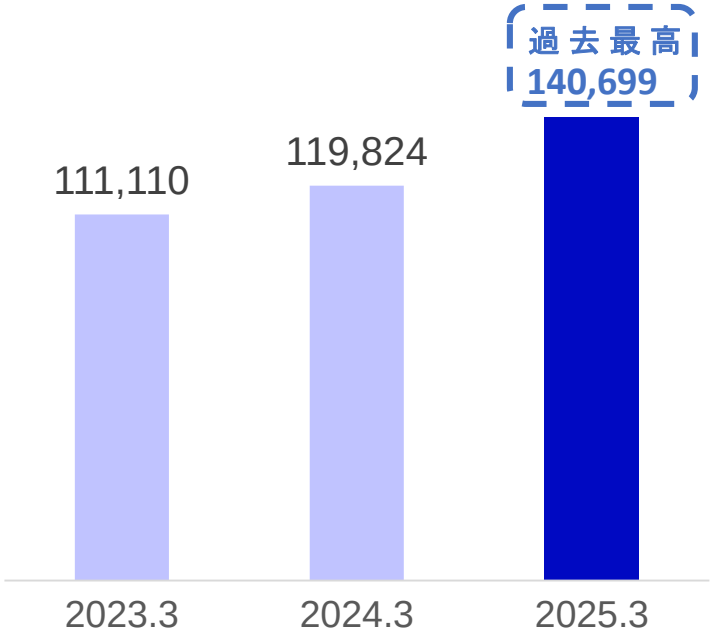
売上高は1,406億円と前期比208億円の大幅増収となり、3期連続で過去最高を更新

■ **利益**

前期に計上した大規模産業用地の売却益の反動減による影響が大きく、営業利益は86億円と前期比8億円の減益、
当期純利益は56億円と8億円の減益

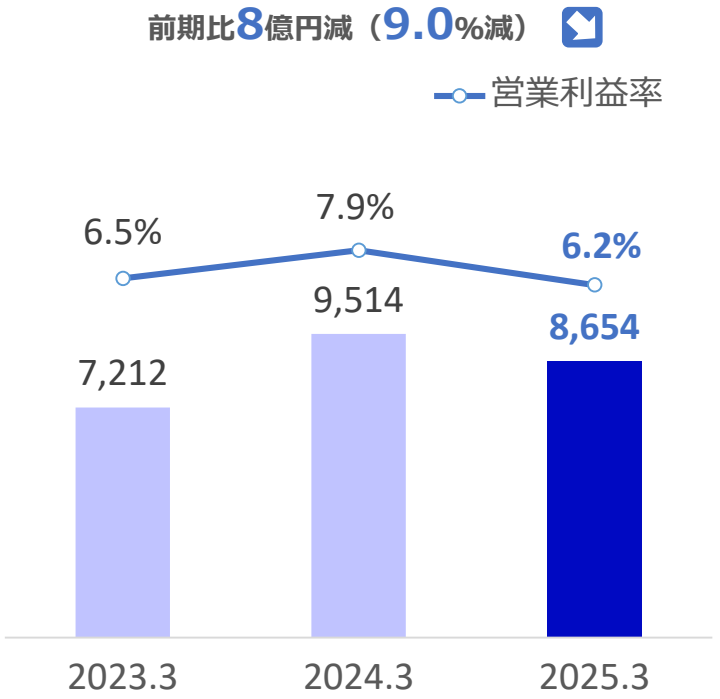
売上高（百万円）

前期比208億円増（17.4%増）



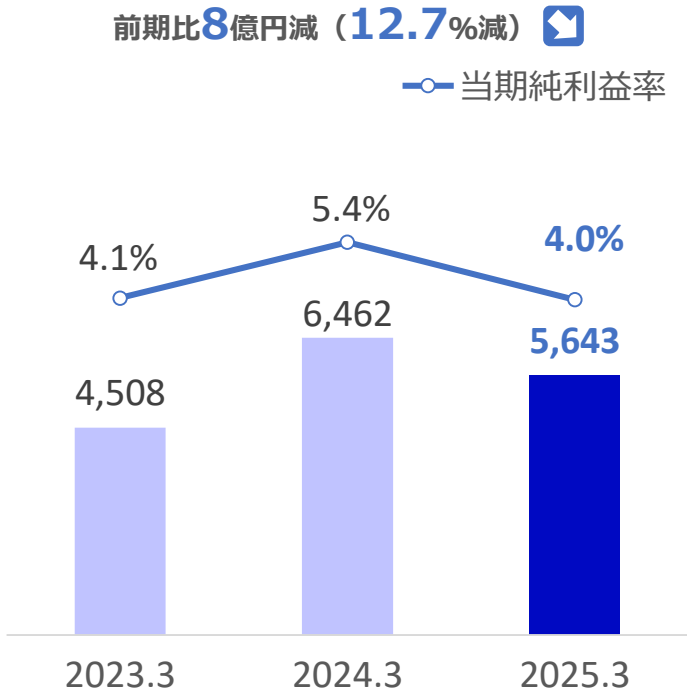
営業利益（百万円）

前期比8億円減（9.0%減）



当期純利益（百万円）

前期比8億円減（12.7%減）



©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

2025年3月期 決算概要

矢作建設工業株式会社

（単位：百万円）

	2023.3 実績	2024.3 実績	2025.3 実績	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	111,110	119,824	**140,699**	20,874	17.4%
完成工事高	94,265	96,230	118,701	22,471	23.4%
不動産事業等売上高	16,845	23,594	21,997	▲1,597	▲6.8%
売上総利益	16,590	19,797	**19,416**	▲380	▲1.9%
（売上総利益率）	*(14.9%)*	*(16.5%)*	*(13.8%)*		*▲2.7pt*
完成工事総利益	10,822	9,584	10,836	1,251	13.1%
不動産事業等総利益	5,768	10,212	8,580	▲1,631	▲16.0%
販売費及び一般管理費	9,377	10,282	**10,762**	479	4.7%
営業利益	7,212	9,514	**8,654**	▲859	▲9.0%
（営業利益率）	*(6.5%)*	*(7.9%)*	*(6.2%)*		*▲1.7pt*
経常利益	7,259	9,588	**8,616**	▲971	▲10.1%
（経常利益率）	*(6.5%)*	*(8.0%)*	*(6.1%)*		*▲1.9pt*
親会社株主に帰属する当期純利益	4,508	6,462	**5,643**	▲818	▲12.7%
（当期純利益率）	*(4.1%)*	*(5.4%)*	*(4.0%)*		*▲1.4pt*

©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

売上高・営業利益増減要因（対前期実績）

矢作建設工業株式会社

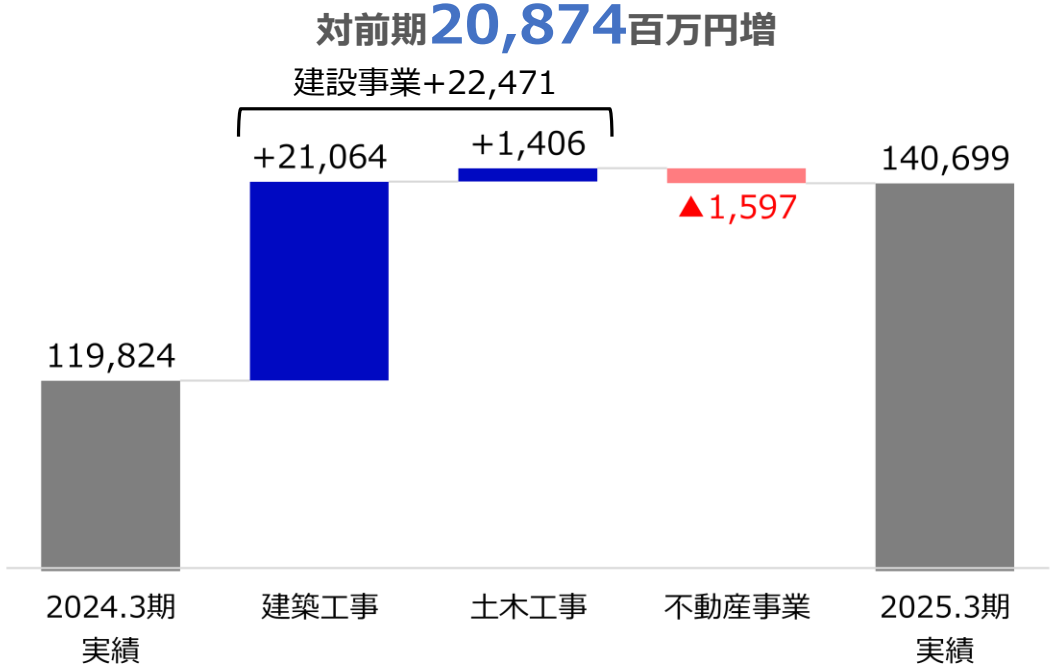
■ **売上高・・・建設事業が大きく伸長したことで前期比208億円の大幅増収となり、前期に引き続き過去最高を更新**

建設事業　：大型物流施設工事を中心に施工が進捗したことにより、前期比224億円の大幅増収
不動産事業：前期に計上した大規模産業用地（大府東海開発プロジェクト1号宅地）売却に係る売上高の反動減の影響から、
前期比15億円の減収

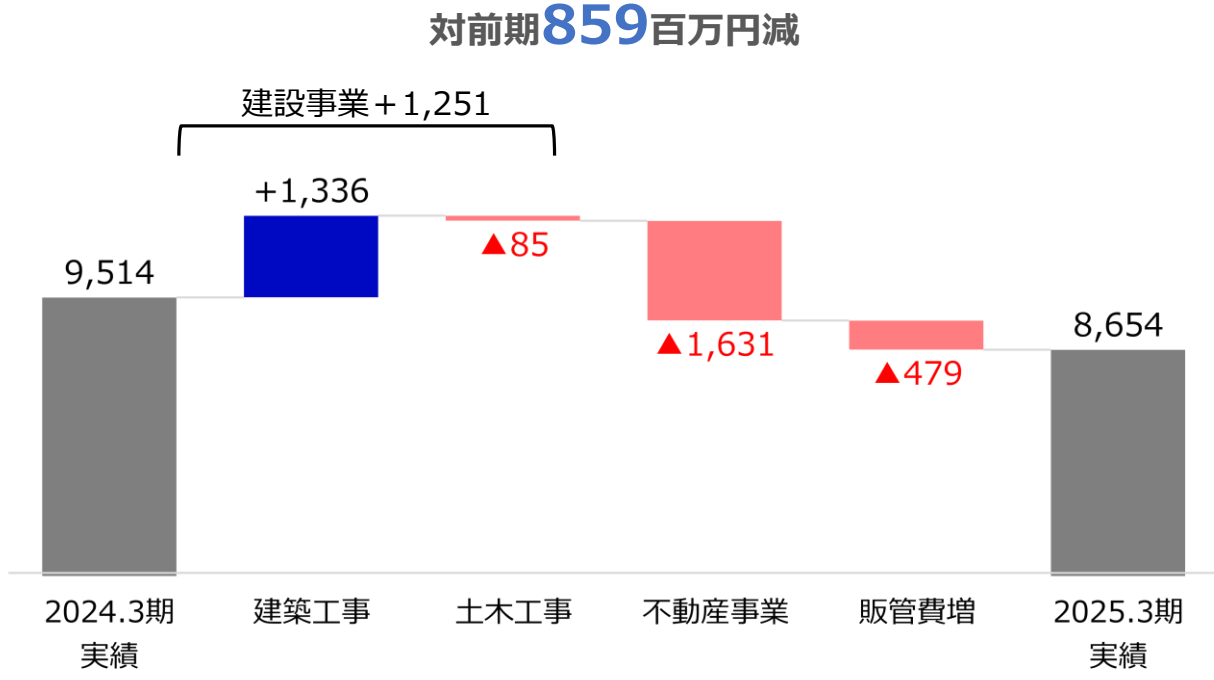
■ **利益　・・・営業利益は前期比8億円の減益**

建設事業　：増収効果により、前期比12億円の増益
不動産事業：売上高同様、大府東海開発プロジェクト1号宅地の売却利益反動減により、前期比16億円の減益
販管費　　：給与水準引き上げなどの人財投資の増加、広告宣伝費などの経費の増加もあり、前期比4億円の増加

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



©2025　All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

受注高、次期繰越高総括

■ **受注高**

建築工事、土木工事ともに複数の大型工事を受注したことにより、好調であった前期をさらに112億円上回り、4期連続で過去最高を更新

■ **次期繰越高**

受注高が大きく増加したことで、今後の売上高に寄与する次期繰越高は1,639億円と前期比258億円の大幅増加となり、4期連続で過去最高を更新

❑受注高

（単位：百万円）

	2023.3 実績	2024.3 実績	2025.3 実績	前期比 増減額	前期比 増減率
建築工事	64,034	102,006	**103,000**	994	1.0%
土木工事	34,485	32,958	**43,182**	10,223	31.0%
合計	98,520	134,965	**146,182**	11,217	8.3%

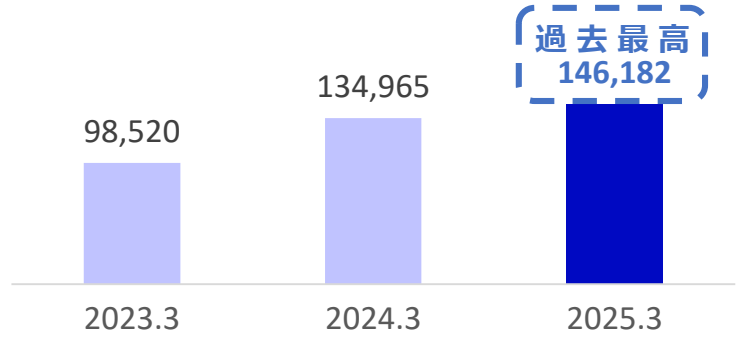
❑次期繰越高

（単位：百万円）

	2023.3 実績	2024.3 実績	2025.3 実績	前期比 増減額	前期比 増減率
建築工事	66,629	103,171	**119,643**	16,471	16.0%
土木工事	32,812	35,005	**44,342**	9,336	26.7%
合計	99,442	138,177	**163,985**	25,807	18.7%

受注高（百万円）

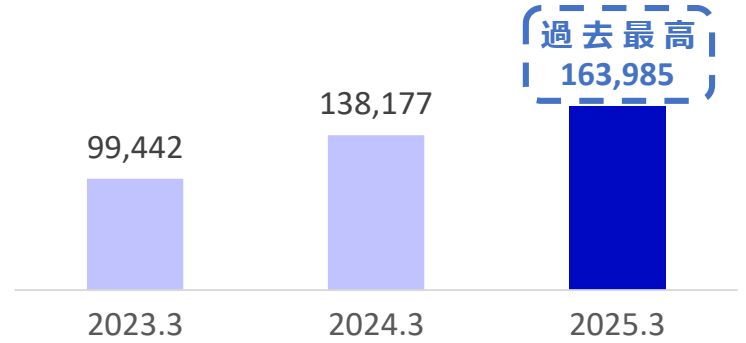
前期比112億円増（8.3%増）



【ご参考】前期までの過去最高値
2024年3月期 134,965百万円

次期繰越高（百万円）

前期比258億円増（18.7%増）



【ご参考】前期までの過去最高値
2024年3月期 138,177百万円

©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

連結財政状態

矢作建設工業株式会社

❑主要経営指標

(単位：百万円)

	2021.3実績	2022.3実績	2023.3実績	2024.3実績	2025.3実績
総資産経常利益率（ROA）	6.3%	5.0%	5.9%	7.5%	**6.4%**
自己資本当期純利益率（ROE）	6.2%	8.6%	7.6%	10.2%	**8.3%**
1株当たり当期純利益（EPS）	75.86円	112.18円	104.83円	150.23円	**131.17円**
自己資本比率	42.1%	49.4%	46.5%	52.8%	**47.7%**
有利子負債	42,940	30,400	31,900	22,400	**38,600**
NET有利子負債（※）	20,848	8,388	9,078	2,413	**22,931**

（※）NET有利子負債 = 有利子負債 - 現金預金

❑連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2021.3実績	2022.3実績	2023.3実績	2024.3実績	2025.3実績
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲ 6,757	15,841	4,152	10,235	**▲ 17,191**
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 220	▲ 1,549	▲ 3,069	▲ 1,181	**▲ 255**
財務活動によるキャッシュ・フロー	15,356	▲ 14,351	▲ 253	▲ 11,857	**13,149**

©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

Ⅲ.2026年3月期 業績予想

©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

2026年3月期 業績予想について

矢作建設工業株式会社

2026年3月期の通期予想は、売上高、各利益段階ともに過去最高を見込む

売上高1,680億円（前期比273億円増）、営業利益100億円（同13億円増）、当期純利益66億円（同9億円増）の予想

■ **売上高**

複数の大型建築工事の施工進捗により、売上高は1,680億円と、4期連続で過去最高を更新する見込み

■ **利益**

建設事業の増収効果により、営業利益は100億円、当期純利益は66億円となる見通しで、各利益段階で過去最高を更新するとともに、
中期経営計画の数値目標「営業利益100億円」の達成を見込む

（単位：百万円）

❑ 2026年3月期連結予想

	2025.3 実績	2026.3 予想	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	140,699	**168,000**	27,300	19.4%
完成工事高	118,701	150,000	31,298	26.4%
不動産事業等売上高	21,997	18,000	▲3,997	▲18.2%
売上総利益	19,416	**21,500**	2,083	10.7%
（売上総利益率）	*(13.8%)*	*(12.8%)*		*▲1.0pt*
完成工事総利益	10,836	15,000	4,163	38.4%
不動産事業等総利益	8,580	6,500	▲2,080	▲24.2%
販売費及び一般管理費	10,762	**11,500**	737	6.9%
営業利益	8,654	**10,000**	1,345	15.5%
（営業利益率）	*(6.2%)*	*(6.0%)*		*▲0.2pt*
経常利益	8,616	**9,900**	1,283	14.9%
（経常利益率）	*(6.1%)*	*(5.9%)*		*▲0.2pt*
親会社株主に帰属する当期純利益	5,643	**6,600**	956	16.9%
（当期純利益率）	*(4.0%)*	*(3.9%)*		*▲0.1pt*

©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

売上高・営業利益増減要因（対2025.3期実績）

矢作建設工業株式会社

■ 売上高

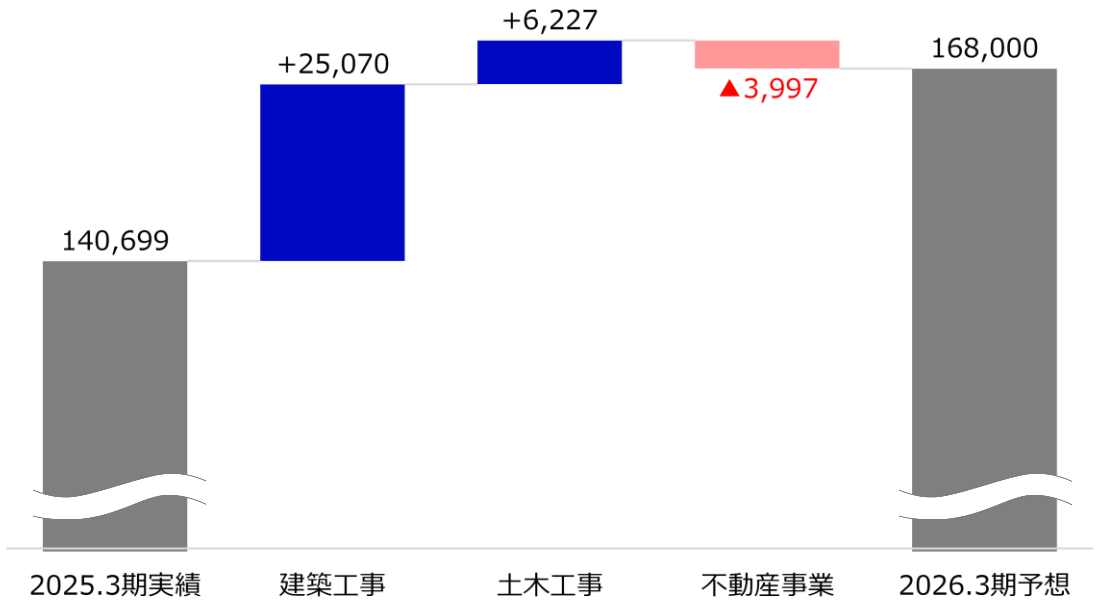
建設事業　：複数の大型建築工事の施工が進捗することにより、前期実績を大きく上回る見込み
不動産事業：分譲マンション事業において、新規供給物件の減少から販売戸数が減少することで、前期実績を下回る見込み

■ 利益

建設事業　：建築工事、土木工事ともに増収となることで、前期実績を大きく上回る見込み
不動産事業：減収の影響により、前期実績を下回る見込み

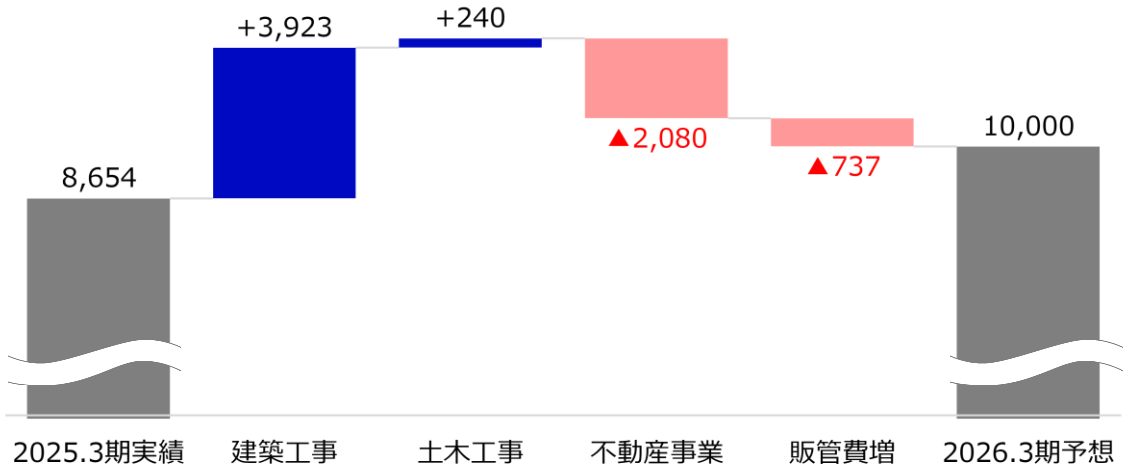
売上高（百万円）

対前期**27,300**百万円増



営業利益（百万円）

対前期**1,345**百万円増



©2025　All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

Ⅳ.中期経営計画

©2025　All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

当社のポジション

矢作建設工業株式会社

中堅クラスから、売上高2,000億円以上の準大手クラスへの飛躍を目指す
（利益面では既に準大手に匹敵する水準を実現）

順位	社名	売上高	営業利益
1	鹿島建設	2兆9,118億円	1,518億円
2	大林組	2兆6,201億円	1,434億円
3	大成建設	2兆1,542億円	1,201億円
4	清水建設	1兆9,443億円	710億円
5	竹中工務店	1兆6,001億円	531億円
6	長谷工コーポレーション	1兆1,773億円	847億円
⌇	⌇		
15	東亜建設工業	3,304億円	206億円
16	奥村組	2,982億円	97億円
17	東急建設	2,931億円	88億円
18	鉄建建設	1,851億円	34億円
⌇	⌇		
24	**矢作建設工業**	**1,406億円**	**86億円**

ランキングの数値は2025年3月期または2024年12月期の数値

営業利益は
準大手水準を確保

スーパーゼネコン　5社
売上高　約1兆円以上

準大手ゼネコン　12社
売上高　約2,000億円以上

中堅ゼネコン
売上高　約2,000億円未満

出所）一般社団法人建設経済研究所の決算分析対象会社40社および階層分類を参考に弊社作成

©2025　All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

2030年度の目指す姿と中期経営計画の位置付け

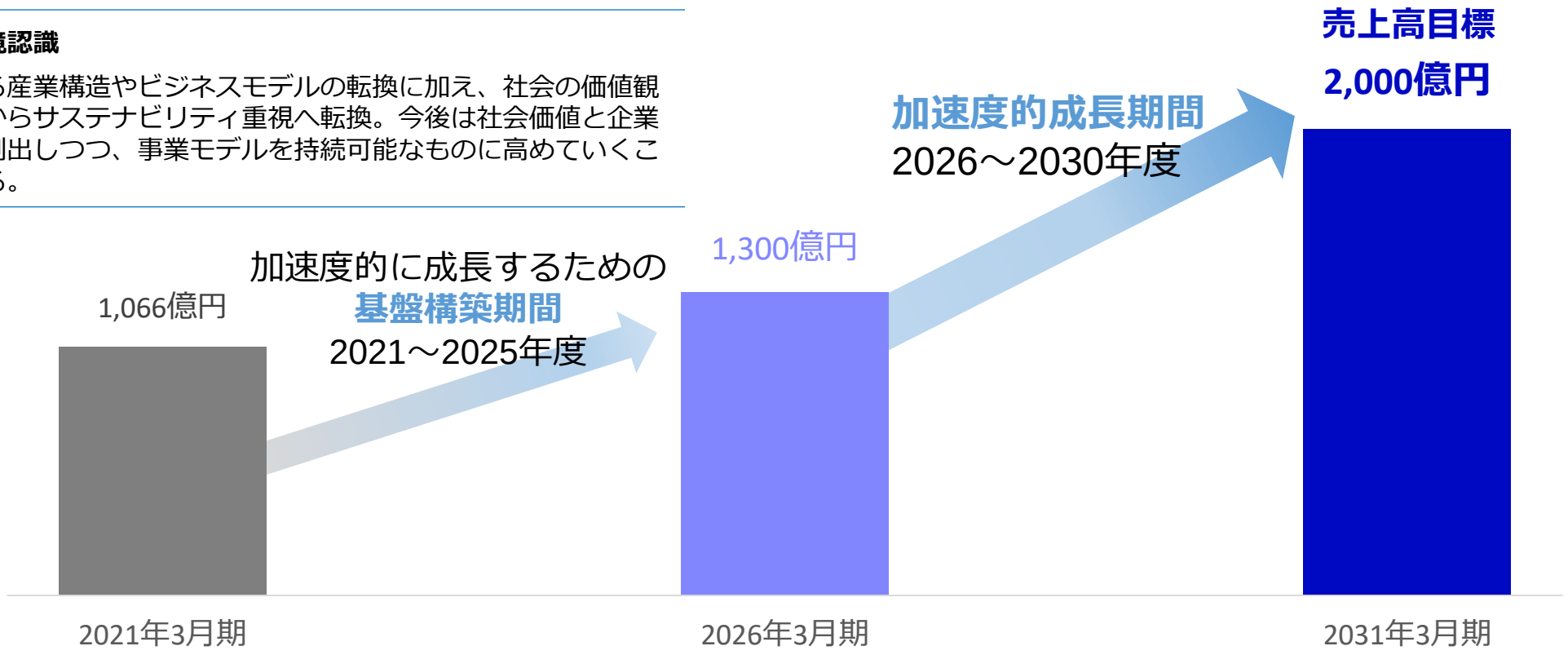
矢作建設工業株式会社

2030年度の目指す姿　「課題解決＆価値創造型企業」

- 顧客や地域が抱える課題を解決するだけにとどまらず、より良い社会を実現するために建設エンジニアリングによる新たな価値を創造・提供することで、顧客・地域、そして社会の持続的発展に貢献する企業
- 東海圏にとどまらずリニア経済圏への事業拡大を図り、そのなかの特定の顧客・分野で強力な競争力を有する企業
- 売上規模としては、2,000億円程度を目指す

今後の市場環境認識

コロナ禍による産業構造やビジネスモデルの転換に加え、社会の価値観は経済性重視からサステナビリティ重視へ転換。今後は社会価値と企業価値の両方を創出しつつ、事業モデルを持続可能なものに高めていくことが求められる。



©2025　All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

事業方針

課題解決＆価値創造型企業への変革

加速度的成長に向けた「**つくる（造る・創る）力の増強**」と「**持続的成長への基盤構築**」

既存事業の深化・進化

建設事業

建築セグメント

- 事業規模拡大に向けた生産体制の強化
- 事業エリアの拡大／対象分野の拡張
- 生産性を向上させる建設生産プロセスの改革
- 新規技術・サービスの開発／技術・ノウハウの習得
- 安全・品質レベルの向上と管理体制の強化

土木セグメント

新規分野・領域の探索・開拓

不動産事業

不動産セグメント

- 東海圏を中心に市場ニーズに即した産業、住宅用地の開発、販売
- リニア経済圏での開発エリアの拡大
- 官有地活用事業等の開発ソリューションの拡充
- メンテナンスやストックビジネス、フィービジネスなどによる領域拡大

全社

- 企画提案力の強化／プロジェクト推進力の強化
- 様々なパートナーとの価値共創
- 魅力的で働きがいのある職場環境の整備
- SDGsへの取組み推進（SDGs宣言）

成長を支える経営基盤の確立

©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

中期経営計画数値目標及び進捗（2021年度～2025年度）

矢作建設工業株式会社

■ **売上高**

不動産開発に伴う建築受注の増加や、大型工事への積極的な取り組みにより、売上高は中期経営計画の数値目標（1,300億円）を大幅に上回る見込み

■ **利益**

計画策定時には想定していなかった資材費や労務費の急騰があったものの、大幅な増収効果により、営業利益は中期経営計画の数値目標（100億円）を確保する見込み

◆中期経営計画最終年度(2026.3)目標

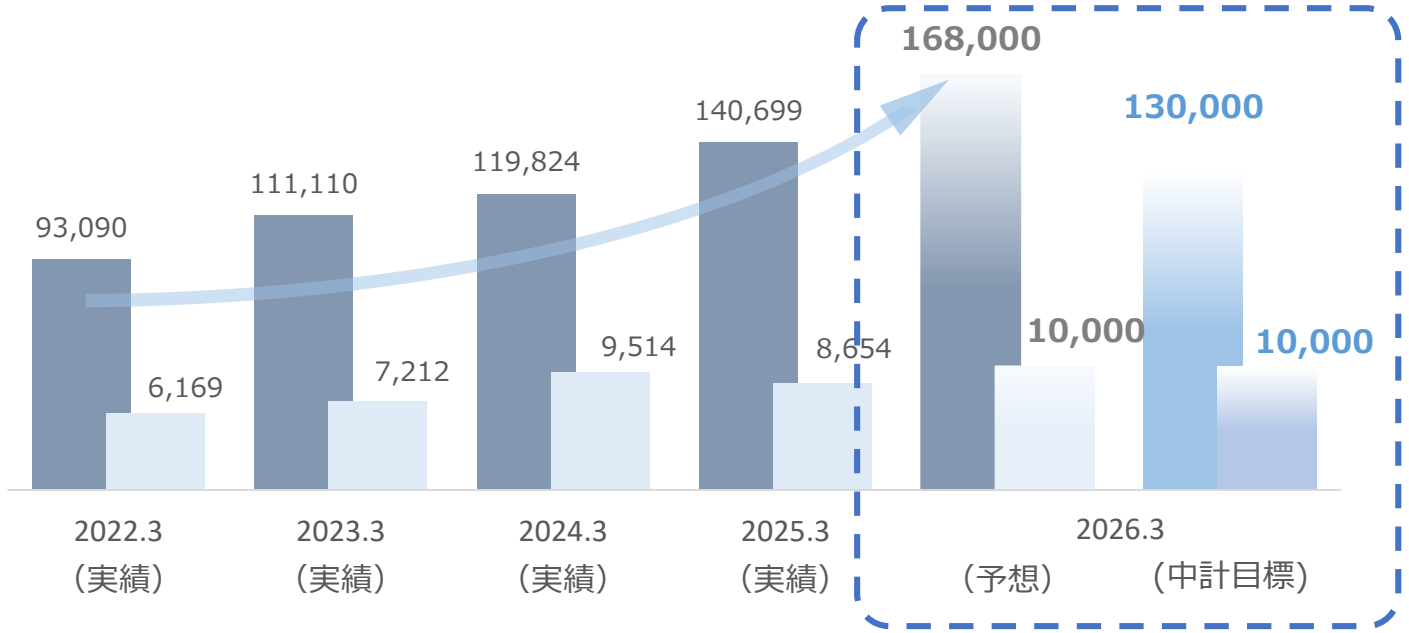
□連結売上高　：　1,300億円

□連結営業利益：　100億円

◆2026.3期通期予想

□連結売上高　：　1,680億円

□連結営業利益：　100億円



©2025　All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

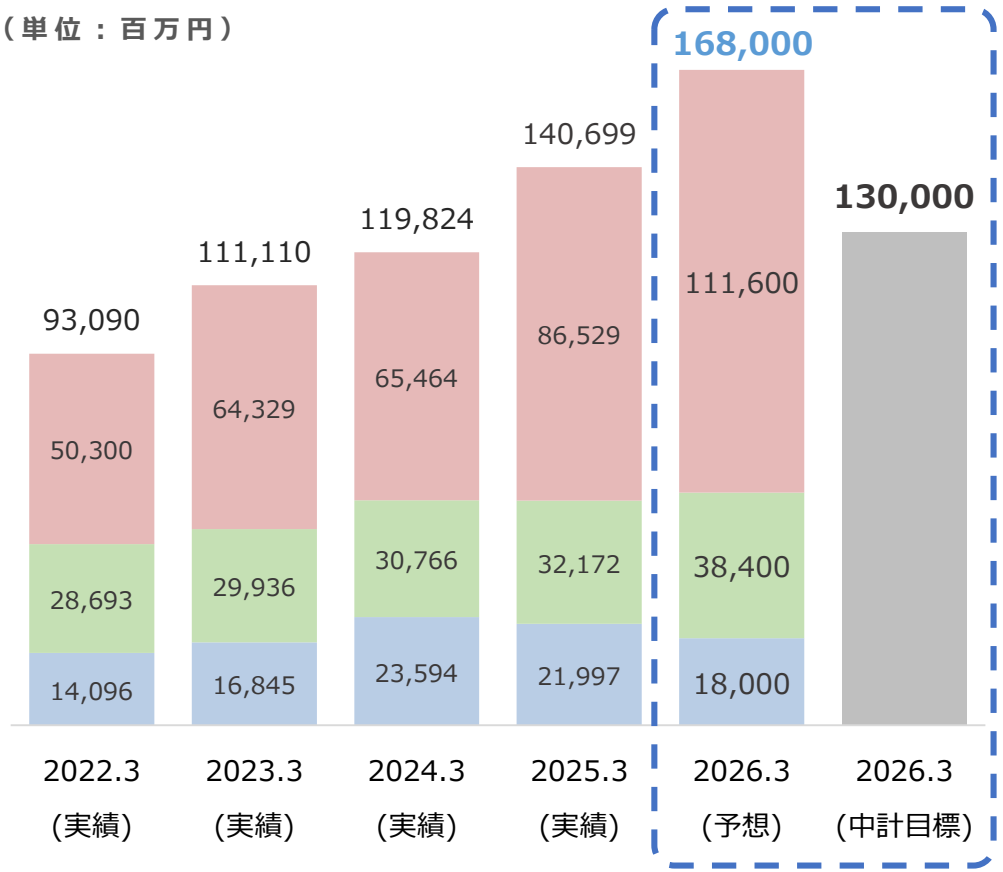
中期経営計画数値目標及び進捗（2021年度～2025年度）

矢作建設工業株式会社

建築事業・土木事業・不動産事業のいずれも順調に進捗し、利益面においてもバランスの取れた事業ポートフォリオを実現

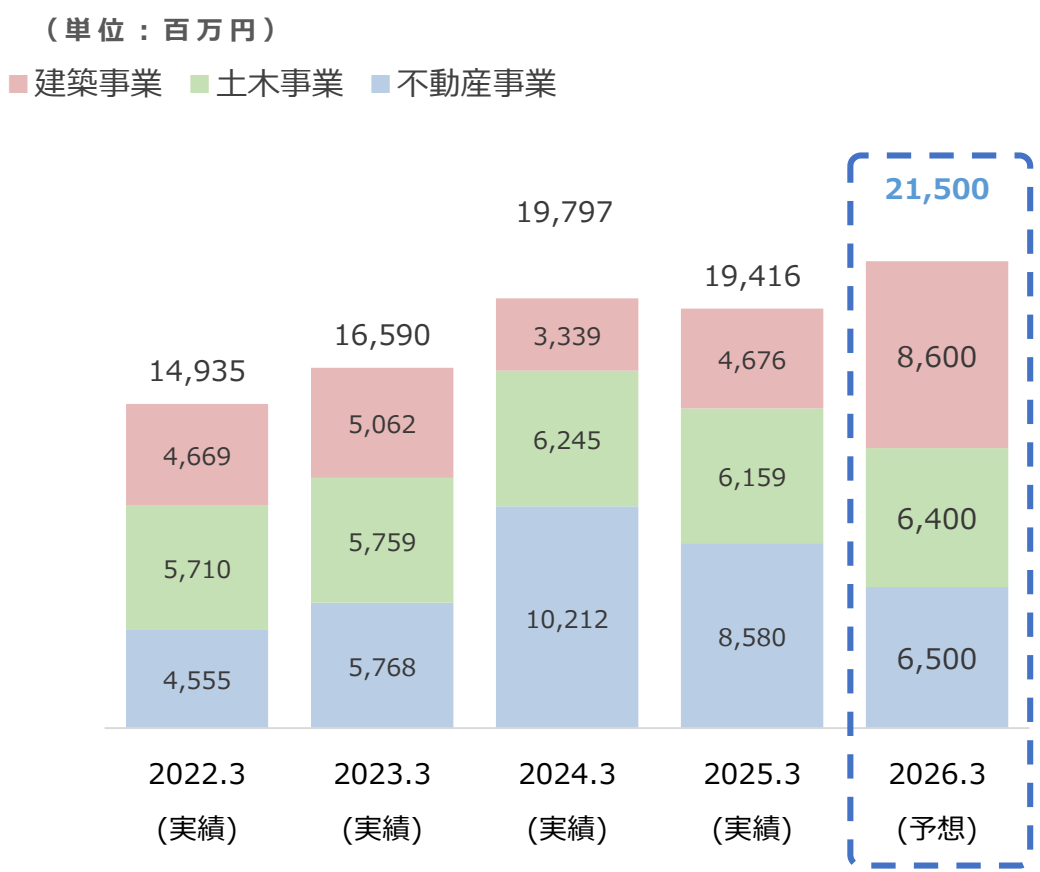
❑セグメント別売上高の推移

（単位：百万円）



❑セグメント別売上総利益の推移

（単位：百万円）



©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

株式売出しの実施（2025.2.14公表）

矢作建設工業株式会社

更なる企業価値の向上を目的に、流動性の改善策として大規模な株式の売出しを実施

売出し実施前の出来高回転率は15%程度であり、流動性が低く投資対象となりにくい状況にあった

売出しの概要

売出株式数	8,809,700株（発行済株式総数対比19.7%） ※オーバーアロットメントによる売出株式含む
売出人	りそな銀行、三菱UFJ銀行、山田商事、 横浜銀行、三井住友銀行、愛知銀行、 豊田信用金庫、損保ジャパン、 鹿児島銀行、十六銀行、大垣共立銀行、 三井住友信託銀行、名古屋銀行　　**計13社**
売出価格	10,164百万円（1株あたり1,154円） ※オーバーアロットメントによる売出株式含む
決議日	2025年2月14日
条件決定日	2025年2月25日
受渡日	2025年3月4日

売出し実施による効果

狙い通り、株式流動性は大幅に改善

- 出来高回転率：約15%※2 → 約250%※3へ向上
  機関投資家も投資対象に
- 浮動（流通）株式：約40% → 約50%へ増加
  次期TOPIXでの継続採用が視野に
- 日次売買代金：約12倍へ増加
  50百万円※2 → 621百万円※3
- 投資家層の拡大
  株主数 7,263名（2024.3）→20,482名（2025.3）へ増加

※1　出来高回転率、浮動株比率、日次売買代金は当社算出
※2　2024.10.1～2025.2.14平均より算出（売出し決議前平均）
※3　2025.2.17～2025.6.30平均より算出（売出し決議後平均）

©2025　All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

Ⅴ.株主還元

©2025　All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

配当方針の変更（DOE・累進配当導入）について

矢作建設工業株式会社

2026年3月期より、株主還元方針「継続的かつ安定的な株主還元」を一層明確にするため、短期的な利益変動の影響を受けにくい

「自己資本配当率（DOE）」を導入かつ「累進配当」を基本とする方針に変更

自己資本配当率（DOE)の目標値は5%以上に設定

株主還元方針（変更なし）

経営基盤の強化と企業価値の向上に向けて、
長期的な視点に立って株主資本の充実に努めるとともに、
企業収益の配分については、
継続的かつ安定的な株主還元を実施することを基本方針とする。

配当方針（目標）の変更

変更前	配当性向 30%以上
変更後	**自己資本配当率（DOE) 5%以上、累進配当**

※自己資本配当率（DOE)＝年間配当額／期中平均 自己資本

変更時期

2026年3月期より適用。

©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

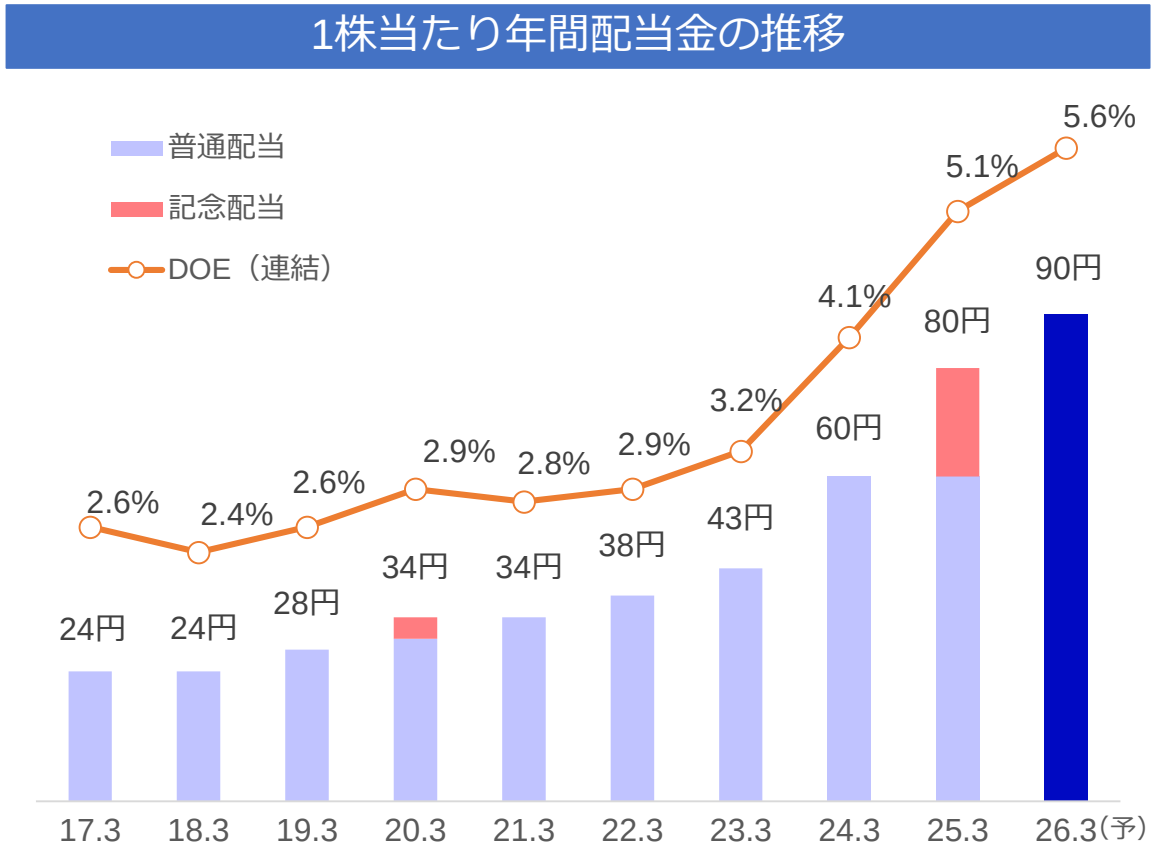
配当について

2026年3月期の年間配当金予想は普通配当90円（前期比10円の増配※）とし、13期連続での減配なし、5期連続の増配を見込む

※2025年3月期（前期）の1株当たり配当金80円には記念配当20円が含まれており、普通配当ベースでは30円の増配

	2022.3	2023.3	2024.3	2025.3	2026.3（予想）
中間配当金	17円	19円	30円	40円	45円
期末配当金	21円	24円	30円	40円	45円
年間配当金	38円	43円	60円	80円	90円
配当性向	33.9%	41.0%	39.9%	61.0%	58.7%
自己資本配当率（ＤＯＥ）	2.9%	3.2%	4.1%	5.1%	5.6%

（※）創立75周年記念配当20円を含む。



©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

株価・出来高推移（2020年4月1日～2025年7月15日）

矢作建設工業株式会社

7/15終値	: 1,904円
PER	: 12.41倍
PBR	: 1.19倍

©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.

ディスクレーマー

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。本資料には監査を受けていない概算値を含むため、数値が変更になる可能性があります。

©2025 All rights reserved., YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD.